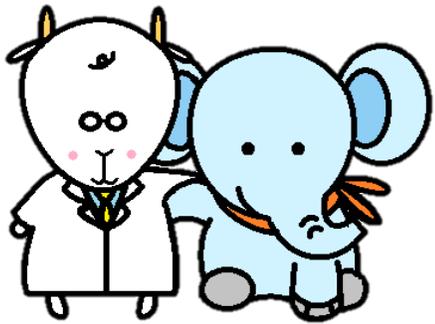


不登校へのカウンセリング



西明石カウンセリングオフィス



不登校とは？

不登校自体は自身を守ることも多く、学校でなくても

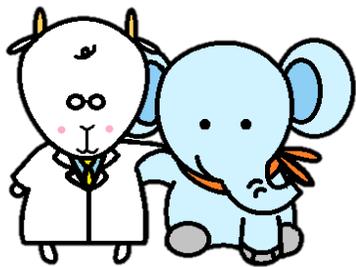
居場所

自分を表現
できる場所

学びを支援して
もらえる場所

対人交流が
できる場所

があれば生き抜いていけます。



不登校の定義

不登校児童・生徒とは、

「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」

と定義されている。

(文部科学省)



不登校の背景

さまざまな精神的問題が背景にあることが多い

例えば・・・

- ・人間関係の悩み
- ・保護者や教師への反発
- ・人生への失望
- ・進路への迷い
- ・成長への不安
- ・「わからない」という子もいる



子どもたちの葛藤

学校へ行けない不安と学校へ行かなければならないという現実の間に挟まれ、葛藤がみられることが多い。

最近では、以下のような葛藤を伴わない不登校もみられている

- 神経発達症にみられる「行きたくないから行かない」
- 「身体の調子が悪いのは学校のせいだ」
- ネットやゲーム「学校へ行くとゲームができない」
- ネグレクトなど被虐待「朝ご飯の用意が出来ていない。親が朝起きてこない。」
- ヤングケアラー「家族が病気で、家の仕事があるから行けない」
- 貧困「給食代が払えない」「働くので行けない」



状態 (不登校の児童・思春期精神医学: 金剛出版を参考)

不登校の経過の5期間

時期	様子
【前駆期】	過剰適応、学校活動や対人関係での萎縮、孤立。
【第1期】 心気期・身体症状期	頭痛、腹痛、悪心、めまいなどの身体症状が出現。
【第2期】 攻撃期・抵抗期	全てに対して頑なになり、家庭内暴力が起こりやすい。保護者側と学校側が相互不信となりやすく、互いに「学校に問題がある」「家庭に問題がある」と歩み寄りがみられないこともある。
【第3期】 ひきこもり期・自閉期	巣ごもり状態で、学校のことには触れない限り波風は立たない。退行し、母親との結びつきが強くなると、父親やきょうだいを排除するようになる。家族の疲弊を減らすため、父親の支援が重要。
【第4期】 社会との再会段階	テレビなどを見て社会事象を口にし、社会参加の話題を避けなくなり、現実的な活動に率直な関心を示すようになる。



対応・支援

- ◆ 早期に気付くことが学校復帰において大変重要となります。
- ◆ また、子どもの心身医療の場を受診し、医療機関と保護者、学校機関との連携がうまく取れ、本人のつらさを理解し、適切な対応がなされれば、早期の学校復帰につなげることができます。
- ◆ 適応指導教室やフリースクールなどの中間的な橋渡しの場をうまく利用することも、本人の生活の支援につながります。
- ◆ 学校以外の場所で勉強でき、対人交流でき、居場所となる場所があれば社会を生きていく力となります。



不登校へのカウンセリング



西明石カウンセリングオフィス

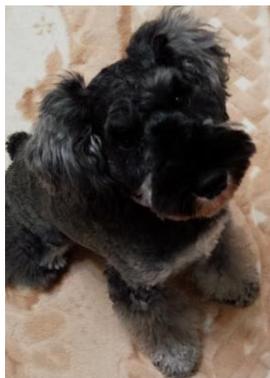
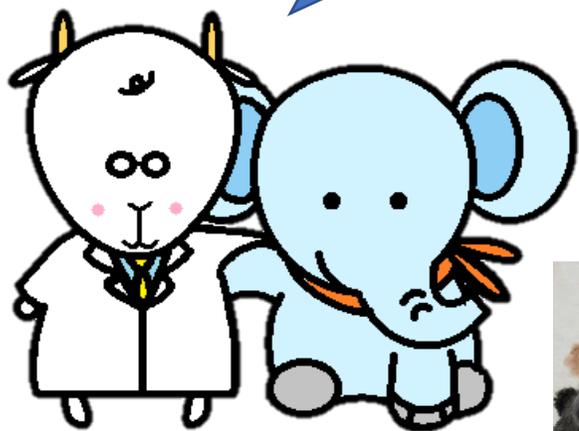


不登校へのカウンセリング

- それぞれの時期において、適切な傾聴・共感・受容を行なっていきます。
- 学校復帰を目指すのではなく、学校を含めた、さまざまな場所で安心できる居場所を探すお手伝いをします。
- 辛かったことや苦しかったことを汲み、ねぎらいを中心とします。
- 必要に応じて、他の機関との連携もはかります。



シリーズで皆さんの参考になることを
お伝えします。



次回は ひきこもりについて

